

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 25日から26日にかけて、高気圧が日本海から日本の東に移動する。
- 25日は、低気圧が黄海付近に発生する。
- 26日から27日にかけて、黄海付近の低気圧が発達しながら沿海州付近を北東へ進む。前線が日本付近を通過する。
- 28日から29日にかけて、低気圧がオホーツク海を北へ進む。大陸の高気圧が東シナ海へ張り出す。気圧の谷が北日本付近を通過する。

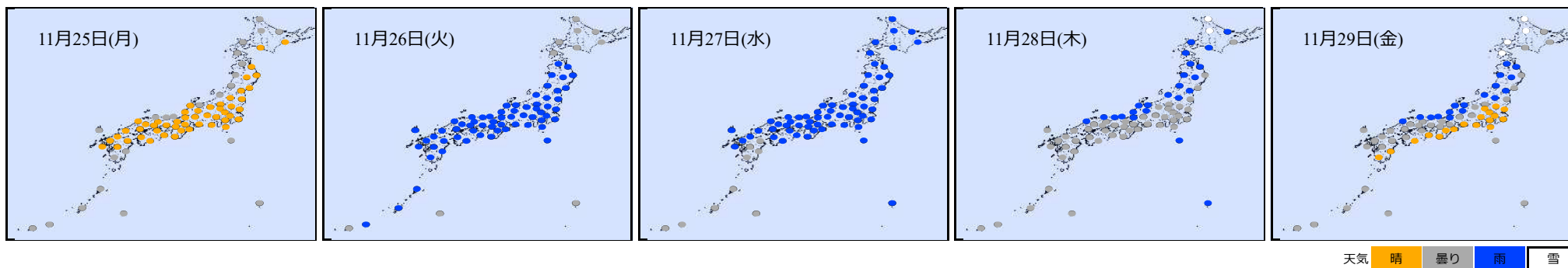
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

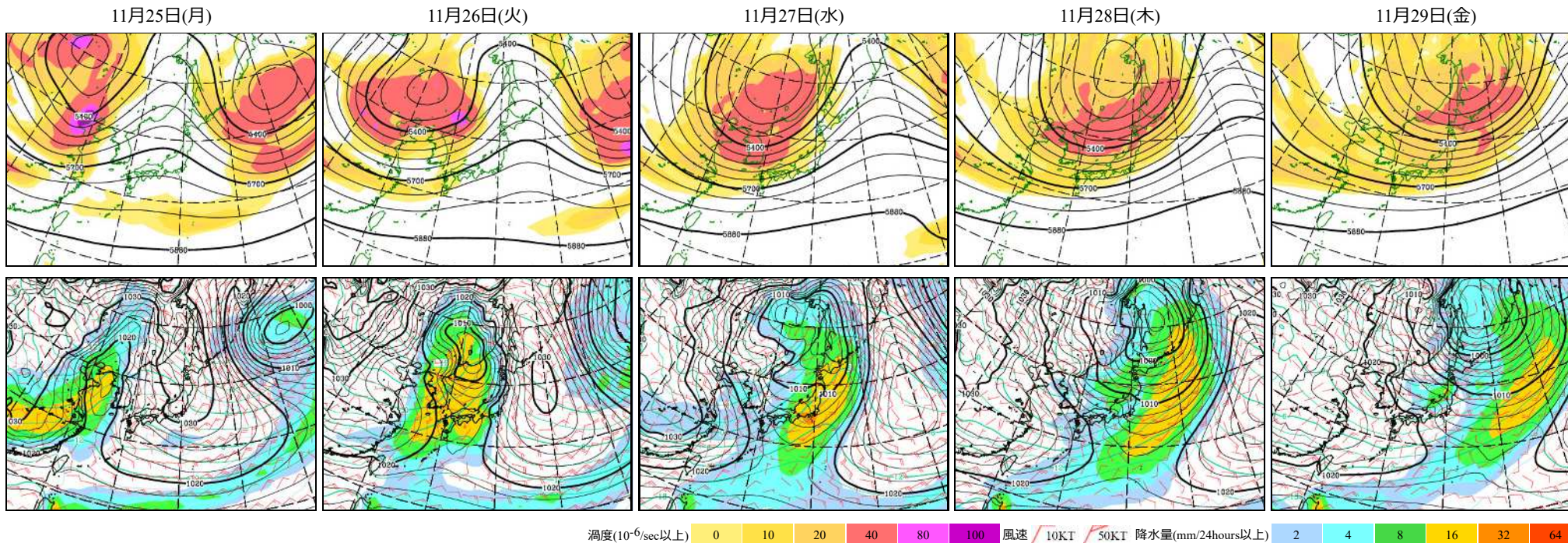
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

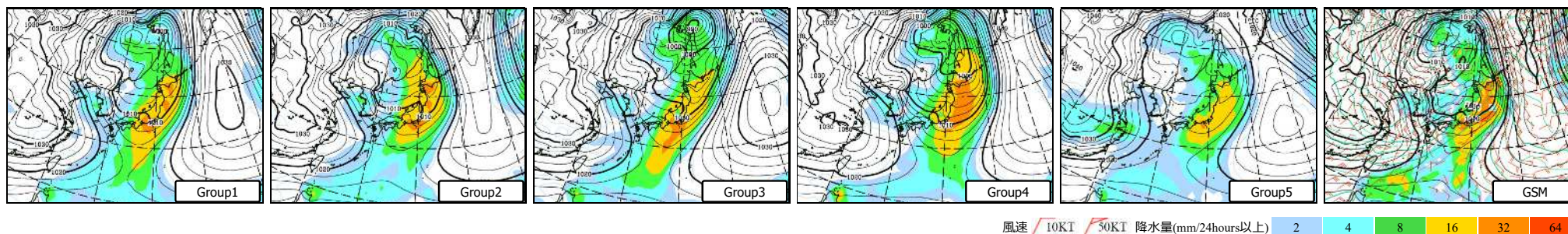


- 北日本と、東日本から西日本にかけての日本海側は、晴れる所もあるが雲が広がりやすく、雨または雪の降る日がある。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、25日は晴れる所が多い。その後は雲が広がりやすく、26日から27日は雨が降る。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、26日は雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月27日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、26日頃は日本海西部付近に進むトラフが深めとなった。地上低気圧は昨日予想よりもやや北よりの沿海州付近を進み、日本付近を進む前線の東進はやや早めとなった。
- 26日から27日に日本付近を通過する前線は、昨日予想よりも東進がやや早まったモデルが多い。
- 期間の終わりは、ENSでは予想の変化は比較的小さいが、北日本付近の低気圧や気圧の谷の予想は、他のモデルでは初期値変わりしていて、モデル間の差は大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。